

北敗南春81 をのりこえ

35万人体制粉碎へ!

その1

日刊 動労千葉

81.5.15

No. 740

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六・公衆(日)三三(22)七二〇七

八一春闘が敗北したことによって、政府・国鉄当局からの三五万人体制合理化攻撃は、一層はずみをつけた形で、熾烈化し、職場・生産点を直撃しています。春闘直後の四月末に、国・動労中央へ提案され、五月二日にマスコミ発表された一七万四千八千人要員合理化促進」にかけた国鉄当局の「決意」は、予算編成期へ向けた助成金獲得と、運賃値上げに對する「言いわけ」的要素も含め、ただならぬものがあると言わなければなりません。今後何回かにわたり、当面する三五万人体制合理化粉碎闘争の、当面する問題点について解明して行きたいと思へます。

三五万人体制攻撃を加速させた 八一ストなし春闘

「日刊動労千葉」は、この間八一春闘惨敗と三五万人体制をはじめとする合理化攻撃の情勢について大要次のようなことを明らかにしてきました。

第一に、八三年改憲・軍事大国化へ向けた運輸・交通体系「整備」のために、国鉄三五万人体制合理化攻撃がかけられてきているのであり、教科書改悪・自衛隊増強・司法反動・差別強化・天皇制イデオロギー攻撃等々の攻撃と全く同じところからの攻撃であること。

第二に、この三五万人体制合理化完遂のためには、闘う労働組合の存在は認められないところから、あらゆる形の労働組合破壊策動が開始されていること。

第三に、八一春闘における敵の攻撃には、このような敵の労働組合ツプシの一環として、八一春闘ストなし↓総評労働運動解体↓日本労働運動の戦闘性破壊↓産報化という面を大きく内包されており、単に賃上げというのみでなく、このような産報化攻撃に対する反撃の視点が、決定的に必要であったこと。

第四に、日本労働運動の総体が、このような敵の攻撃意図を粉碎し、原則的に闘い抜くという視点を持ち得ぬが故に、ストなし春闘という形での八一春闘惨敗の結果し、この春闘惨敗に追い討ちをかける形で、敵が国会における官公労働者への「仲裁々定完全実施拒否」または仲裁実施と行政改革合理化とのパートナー攻撃に出てくることは必至であること。

動労千葉の路線的正義性

「反処分・反合理化・生活防衛・三里塚労農連

帯」をスローガンとする動労千葉の八一春闘は、三月ジェット決戦闘争の圧倒的高揚を頂点に、全国の闘う労働者・人民に、労働者・労働組合が八〇年代を闘う方向性を指し示し、三里塚を闘う労働運動を基軸に、敵・権力中枢の政治路線「軍事大国化と闘う労働運動の路線的正義性は、全国の動労内外の職場・生産点で、多くの胎動を生み出しています。

動労千葉の全国オルグ団は、国労・動労組合員をはじめとする多くの労働者から、一動労千葉のように闘わなければ、三五万人体制をはね返すことはできない」「われわれも必ず決起するから、動労千葉は当然や」「本部」反動分子の攻撃をはね返してがんばってほしい」という決意と激励を、全国各地で受けています。

であるからこそ「三五万人体制完遂のためには動労千葉のような労働組合は認められない」とする立場からの組織破壊攻撃が動労千葉に集中しているのです。

三五万人体制攻撃を粉碎するために、討論を深め、動労大改革―戦闘的労働運動の再生へ向けた取り組みを強化しよう。



訂正とおわび

五月十四日付「日刊」

の号数が誤っておりまして、正しくは「第七三九号」ですので、おわびして訂正いたします。

出直し強行開港三周年・二期着工粉碎・空港廃港50。24全国総決起集会

結集 10時
成田運転区